

入選

「PK」

伊坂幸太郎 (講談社)

健康栄養学科 吉村梓

この本は表題「PK」と「超人」「密使」の三本の短編をまとめたものになります。ストーリーはいずれも端的に言ってしまえば、登場人物が巨大な力に振り回される話なのですが（具体的な内容は字数の関係で割愛させていただきます）一体巨大な力が何者なのか、は最後まではっきりしません。

さて、作中にはしばしばドミノが引き合いに出されます。指先一つでドミノが倒れるように些細な行動が大きな結果を引き起こすという例えです。

力に振り回され立ち向かう人物達は、誰かの行動が自分の巨大な力として降りかかった時それにどうやって立ち向かうか？もしくは自分の行動で誰かの未来が変わるとしたらどうするか？ということを読者に問いかけてくるようです。作中では一つの答えとしてある言葉がでてきます。「臆病は伝染する。そして勇気も伝染する。」意味は是非実際に読んで考えてみてください。

文章は真に迫り、すっと入ってきます。ある人物の落下シーンでは、「作者は本当に高い所から落ちた事があるのでは？」と思うリアルさを感じました。難解な箇所もありますが、読み流してしまっても特に問題ありません。

三編はいずれも絡み合って、同じ場面は違う視点で再生され、ページをめくる度にパズルピースをはめるように足りない部分が補完されていきます。ただし最後まで読んでもピースは欠けたまま。すっきりしない読後感ではありますが、代わりに自分でピースを考える楽しみが残ります。

サラリと読めて少し哲学。都合良くすっきりと終わってしまうストーリーは物足りないという人にオススメです。タイムパラドクス、パラレルワールドなどにピンとくるSF好きの人も是非。

予備知識無しで読み始めると謎の明かされなさに困惑するかもしれませんが、もしこのレビューが「分からなくても大丈夫」と思える助けになれば幸いです。